

「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成研修」

1 趣 旨

- ・全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEALリーダー）を養成する。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和2年9月19日（土）～9月21日（月・祝）＜2泊3日＞
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 後 援 島根県教育委員会
- (4) 対 象 自然体験活動に興味がある方、自然体験活動指導者になりたい方（18歳以上）
青少年教育に係る指導員やリーダー
- (5) 参加者 10名（社会人10名） 募集15名程度
- (6) 講 師 (1) 佐藤 しのぶ 氏（くにびき自然学校代表）（講義・演習①～⑨）
(2) 堀江 清二 氏（まなび工房代表，広島経済大学非常勤講師）
（講義・演習①～⑨）
(3) 門脇 碧衣 氏（自然教室そらやま代表）（講義・演習①～⑨）
※主任講師 国立三瓶青少年交流の家 久城 秀太（ガイダンス①・②）
- (7) 日程・研修内容 ☆：法人ボランティア登録必須科目（希望者）

【1日目：9月19日（土）】

- 9：30～10：00 集合・受付
- 10：00～10：30 開講式・ガイダンス①(0.5h)
- 10：50～12：20 講義・演習①「自然体験活動の技術①」（1.5h）
昼食・休憩
- 13：30～17：00 講義・演習②「自然体験活動の技術②」（3.5h）
- 17：30～19：00 夕食・入浴・休憩
- 19：00～20：30 講義・演習③「青少年教育における体験活動」（1.5h）
- 21：00～22：15 情報交換会（自由参加）
- 22：30～ 就寝

【2日目：9月20日（日）】

- 9：00～10：30 講義・演習④「自然体験活動の技術」（1.5h）
- 10：30～12：00 講義・演習⑤「自然体験活動の指導」（1.5h）
- 12：00～13：00 昼食・休憩
- 13：00～17：00 講義・演習⑥「自然体験活動の安全管理」（4.0h）
- 17：00～19：00 休憩・夕食・入浴
- 19：00～20：30 講義・演習⑦「対象者理解」（1.5h）
- 21：00～22：00 ☆「青少年教育施設におけるボランティア活動」
- 22：30～ 就寝

【3日目：9月21日（月・祝）】

- 9：00～12：00 講義・演習⑧「自然体験活動の特質」（3h）
- 12：00～13：00 昼食・休憩
- 13：00～14：00 講義・演習⑨「自然体験活動の特質」（1h）
- 14：00～14：30 ガイダンス②（0.5h）
- 14：30～15：00 認定試験(0.5h)
- 15：10～16：15 事務手続き・閉講式（ふりかえり）
- 16：15～ 解散

3 事業の特色

① プログラムデザインと企画のポイント

- 今回の研修会では、研修会終了後の参加者の姿を次のようにイメージしてデザインをした。
 - ・プログラムのねらいを理解し、参加者及び担当するグループメンバーの支援を行うことができる。（プロセスとコンテンツの視点を意識できるようになること。）
 - ・参加者及び担当するグループのメンバーの安全に留意することができる。
 - ・体験学習法について理解し、意識できる。
- 初日の午前・午後は、指導者視点ではなく、参加者視点でアクティビティを行うようにデザインした。それによりメンバー間のつながりを深めることにつながり、2泊3日をともに学び合う意識を育てるようデザインした。また、2日目以降指導者視点に切り替えた際、実際の体験を通して、学びを深めることにつながるようにした。
- 事業参加者で法人ボランティア登録を希望する者については、ボランティア共通カリキュラム修了と同等程度の理解と認定ができるよう、ボランティア養成カリキュラムの科目も選択で受講できるようにした。
- 最終日の「自然体験活動の特質」では、今までの学びの総まとめの要素も含め、実際にプログラムの企画を行うようにした。各班プレゼンテーションを実施し、1班の企画したプログラムを実際に全員で体験し、意見交換を行うようにした。（時間の都合上、1班のみとした）

② 運営のポイント

- 新型コロナウイルス感染症の予防のため、次のことを行った。
 - ・研修室の換気の徹底。
 - ・手洗い及び消毒の徹底。特に、研修の特質上、身体接触を伴う活動の前には、必ずアルコール消毒の実施。
 - ・マスク着用の徹底。ただし、3密を回避できる状況（屋外での活動等）または、身体的負荷を伴う活動の際は、熱中症予防の観点からマスクを外すことも可とする。
 - ・検温確認表を参加者へ配布し、検温結果を記録してもらうようにする。また、毎朝、参加者の体調確認の実施。
 - ・食事時間・入浴時間については、密にならないよう配慮して調整。
- 1日の終わりにはふりかえりを入れ、知識の整理だけでなく参加者同士で学びを深める時間を取り入れた。

③ 広報のポイント

- 公益財団法人ふるさと島根定住財団の定期刊行物への同封送付を活用し、島根県内のNPO団体（約280団体）、公民館（約320団体）、地域づくり団体（約300団体）、公益法人・公共施設（約50団体）へ送付。

4 参加者の声

- プログラムを受けるたびに大きな発見があり、早く実生活でも実践したい（意識したい）です。
- この研修で、「自分も自然体験活動を提供する人になりたい」と強く思いました。明確な理想像が見えたような状態でとても満足しています。
- 新たな学びばかりでした。仕事に直結する内容であり、とても有意義でした。
- 新たな学びの連続で、自分の変化（新たな自分）にもたくさん気づくことができました。
- ただ知識を得るだけでなく、すぐ実践を通してアウトプットとフィードバックができてよかったです。

5 成果と課題

《成果》

- 「自分も自然体験活動を提供する人になりたい」、「明確な理想像が見えた」、「今回の学びを今後の実践に活かしていきたい」「次の NEAL インストラクターを目指したい」といった参加者アンケートやふりかえり等から、自然体験活動指導者を目指す気持ちや、さらなる学びに対する意欲を育てることにつながった。
- 「環境要因だけでなく、参加者要因や指導者要因がリスクマネジメント（安全・安心）に大きく関わることを学んだ」という参加者アンケートや、ふりかえりの様子からも参加者が、リスクマネジメントの重要性について理解し、今後の実践に向けたきっかけづくりにつながった。
- 「グループ・プロセスを大切にする」、「ファシリテーションの重要性を学んだ」「体験したことを次にどう活かしていくか等ふりかえりの重要性を学んだ」というふりかえり時の参加者の声や試験結果から参加者が体験学習法について理解し、今後の実践に向けたきっかけづくりにつながった。
- 「ふるさと島根定住財団」を通じ広報を行ったため、チラシ等の発送費を抑えるだけでなく、島根県全域への広報が可能となり、社会人の参加者増加につながった。
- 研修終了後、参加者同士でグループ LINE ができ、活発な情報交換が行われている。本研修が参加者同士のつながりを深めるとともに、今後の自然体験活動指導者としてのネットワークの拡大にもつながった。

《課題》

- 「自然体験活動の特質」の際、企画したプログラムを実際に実践できたのは1班のみだった。全員が企画したプログラムを実践できるよう、研修会全体の時間配分について見直していきたい。



(担当：事業推進係主任 久城 秀太)